

令和6年度兵庫県中学校高等学校青少年赤十字協議会例会(第2学期)を開催

11月10日、兵庫県支部にて令和6年度兵庫県中学校高等学校青少年赤十字協議会例会(第2学期)を開催し、青少年赤十字加盟校4校11名が参加しました。

今回は、神戸常盤大学の岩越先生による講演「奉仕ってなんだろう?障害のある子どもたちと共に歩んできて」を聴講したあと、「奉仕」をテーマとした哲学対話を実施。その後、献血セミナーを受け、血液センター内の見学を行いました。

参加者からは「他校のJRCメンバーと奉仕について考え、学ぶことができてよかった」、「血液の大切さがわかった。さっそく献血してきます」という感想がありました。



姫路市赤十字奉仕団から姫路赤十字病院小児病棟へ、ディズニーDVDを寄贈

12月5日、姫路市赤十字奉仕団から姫路赤十字病院へ、小児病棟で子供たちが視聴するためのディズニーDVDセットが寄贈されました。

これは、姫路市赤十字奉仕団の、子供たちのための奉仕活動の一環で、岩田稔恵委員長(写真左から2人目)は「入院している子供たちのために選びました。ディズニー映画で少しでも気が紛れたら」と岡田病院長(写真中央左)に手渡しました。

岡田病院長は「いつも気遣っていただきありがとうございます。子供から大人までディズニーはすごく人気がある。病気と闘っている子供たちの支えになると思います」と話しました。



姫赤祭を開催!(姫路赤十字看護専門学校)

11月2日、異文化や地域交流を目的に姫赤祭(ひめせきさい)を開催しました。「姫路で1番赤く盛りあがれ!」のテーマのもと各クラスのステージショー、バザーやビンゴ、外国語ゲーム等の様々なイベントが催されました。多くの方にご来場いただき、学生たちも楽しいひとときを過ごすことができました。



兵庫県赤十字有功章等贈呈式の開催

12月20日、兵庫県支部にて「令和6年兵庫県赤十字有功章等贈呈式」が挙行されました。

令和6年は、有功章・紺綬褒章・厚生労働大臣感謝状・ポスターコンクール優秀賞など、合わせて237名の方が受章となり、28名の代表・個人・法人の方々に有功章等を贈呈させていただきました。

受章された皆さま、誠におめでとうございます。今後も赤十字への変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。



1.17ひょうご安全の日のつどいに参加

1.17ひょうご安全の日のつどいにおいて、兵庫県支部では炊き出しなどを行いますので、是非ご参加ください。

- ・兵庫県支部庁舎1階駐車場:みそ汁の炊き出し
 - ・なぎさ公園:赤十字奉仕団による豚汁の炊き出し
- 大型エアートント内で救急法講習の実施



講習会のご案内 対面での講習会のご案内

救急法基礎講習(1日の講習)	2月22日(土)13:00~17:30 会場:日本赤十字社兵庫県支部7階
救急法救急員養成講習(2日間の講習)	2月23日(日・祝)・24日(月・休)9:30~17:30 会場:日本赤十字社兵庫県支部7階

※申込期日は開催日(初日)の1ヵ月前までです。

オンラインで学べる赤十字講習会のご案内

講習内容	開催日	時間
ちょっと知ってみたい。認知症 ☆【健康生活支援講習】地域で支える認知症	1月21日(火)	10:30~11:30
みんなで学ぼう!応急手当【救急法】きずの手当	1月21日(火)	14:00~15:00
こどもにAEDって使えるの?【幼児安全法】乳幼児の一次救命処置	3月 4日(火)	10:30~11:30
あなたは大切な人を救えますか?【救急法】一次救命処置	3月 4日(火)	14:00~15:00
今、考えようよ自分の健康☆【健康生活支援講習】健康な高齢者をめざして	3月18日(火)	10:30~11:30
知っておきたい!急病・手当の基本☆【救急法】急病の手当	3月18日(火)	14:00~15:00
あなたは大切な人を救えますか?【救急法】一次救命処置	3月25日(火)	10:30~11:30
こどもにAEDって使えるの?【幼児安全法】乳幼児の一次救命処置	3月25日(火)	14:00~15:00

☆印の講習は講義のみです。それ以外は実技を含みます。企業や各種団体でもオンライン講習にお申込みいただけます。上記日程以外でも開催することができますので、当支部救護課講習係にご連絡いただき、社内研修等でご活用ください。

講習についての最新情報は、ホームページにて随時発信しています。ホームページにてご確認ください。お問い合わせは0120-078-456(振興課)まで

講習に関するお問い合わせ	Tel.078-241-1499
ホームページ(講習のページ)	https://www.hyogo.jrc.or.jp/lecture/

遺言・相続財産・お香典でのご協力について

「自分が亡くなった後、これまで築いた財産の一部を赤十字に寄付したい」といったご相談や、大切な方を亡くされたご遺族から、「故人の遺産を社会のために役立ててほしい」というお申し出が増えています。日本赤十字社では、このような尊いご意思に応えるために、遺贈(遺言によるご寄付)、相続財産等のご寄付を承っております。

お問い合わせは0120-078-456(振興課)まで

※隔月(奇数月)に発行しています。



〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番5号 TEL.078-241-9889 FAX.078-241-6990

赤十字 兵庫 検索 <https://www.hyogo.jrc.or.jp/>

ひょうごの赤十字 1月号 [2025年1月1日発行]

ひょうごの赤十字+

2025
1

■ ホームページ
<https://www.hyogo.jrc.or.jp/>
■ インスタグラム
https://www.instagram.com/nisseki_hyogo/
■ Facebook
<https://www.facebook.com/nisseki.hyogo/>



いのちと健康を守る活動へのご協力に感謝いたします。



- 阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えて
- 災害救護体制のより一層の強化!
- 令和6年度兵庫県中学校高等学校青少年赤十字協議会例会(第2学期)を開催
- 姫路市赤十字奉仕団から姫路赤十字病院小児病棟へ、ディズニーDVDを寄贈
- 姫赤祭を開催!(姫路赤十字看護専門学校)
- 兵庫県赤十字有功章等贈呈式の開催



阪神・淡路大震災30年
1995.1.17

阪神・淡路大震災から30年の節目を迎えて

阪神・淡路大震災からこれまでの救護活動の展開

1995年1月17日、阪神・淡路大震災が発生。6,434人の尊い命が失われました。それ以降も、東日本大震災、熊本地震、令和6年能登半島地震など、未曾有の災害に見舞われました。日本赤十字社では、震災直後から被災地域に救護班を派遣し、被災された方々の診療やこころのケア、また、救援物資の配布、ボランティアによる炊き出しなど、総力を挙げていのちと健康を守る活動を実施してきました。

今後発生が予想されている南海トラフ地震などの大規模災害に対し、資機材の整備や研修・訓練の実施など、救護体制のより一層の強化に取り組んでまいります。



阪神・淡路大震災(1995年1月)



東日本大震災(2011年3月)



熊本地震(2016年4月)



令和6年能登半島地震(2024年1月)

～正しい情報入手し、次の手段を考える大切さ～

神戸赤十字病院 消化器内科部長 白坂大輔

阪神淡路大震災が起こった1995年1月17日、私は須磨赤十字病院に勤務しており、内科医師の2年目でした。1月17日の夕方、がれきの下から救出された方が須磨赤十字病院に運ばれてきました。目立った外傷はなかったので、一通りの指示をだして、他の患者さんの対応を行っていました。数時間後、その方のところに戻ってきた私は、血液検査の結果をみて愕然としました。腎臓は動いておらず、肝臓もかなりのダメージを受けていました。これが、クラッシュ症候群か……!

長い時間体の上に重いものがのっていると、筋肉がこわれてミオグロビンやカリウムがたまっていきます。重いものをどけて血液の流れがよくなったとき、たまっていたミオグロビンやカリウムが全身にまわり、腎臓が悪くなったり、不整脈で心臓がとまったりする病気、それがクラッシュ症候群です。今なら、インターネットを使って、広域医療搬送システムを用い、ヘリコプターなどで人工透析ができる施設に転院するでしょう。でもその当時、どこに連絡をとって、どこに搬送すればよいのかかわからず、「孤立」した状態でした。人工呼吸器装着を含め、集中治療を行いました。数日後に亡くなりました。今でもそのことを思い出すと、悔しさで胸がいっぱいになります。

あれから30年、阪神・淡路大震災での経験を活かし、日赤救護班活動に全力を注ぐことが、私のやるべきことだと信じています。東日本大震災のときも、熊本地震のときも、能登半島地震のときも現地に行かせていただきました。現地では、正しい情報入手し、次の手段を考える大切さを感じます。その情報を関係者と共有し、「孤立」しないことがいかに重要かを考えさせられます。

阪神・淡路大震災を経験したこの神戸から、「日赤救護班活動がますます発展していくこと」を期待しています。



～阪神・淡路大震災の救護活動を経験し、今、そして未来に向けての取り組み～

神戸赤十字病院 総務課長 安部雅之

1995年1月17日、阪神・淡路大震災が発生したあの日、日本赤十字社兵庫支部の職員として私は現場に立っていました。突然の大災害に直面し、これまでに経験したことのない状況に対処しなければならない日々が始まりました。当時、救援物資の担当を担い、全国から寄せられた大量の救護物資を管理する場所がなく、保管場所の確保が最初の大きな課題でした。県の協力を得て地下駐車場を保管場所として使用することでなんとか問題を解決しましたが、次に直面したのは、物資をどの避難所に届けるべきかという大きな課題でした。避難所の情報が乏しい中、全国から派遣された日赤職員とボランティアさんの協力を得て、救急車などを使って各地域を巡り情報を収集する地道な取り組みを通じて、避難所の状況を少しずつ把握し、微力ながらの支援を徐々に届けることができるようになりました。しかし、長期化する活動の中で先が見えない空虚感に苛まれることも多く、それでも人命を救う使命感に支えられた1年余りの経験は、私にとって生涯忘れられないものとなっています。その後、時は流れ私は2003年4月より兵庫県災害医療センターに所属し、2004年10月の新潟中越地震や2011年3月の東日本大震災の対応、神戸赤十字病院に配置換え後、2016年4月の熊本地震など、多数の被災地での救護活動支援に携わってきました。災害対応の現場はこの30年間で目覚ましい進歩を遂げ、特に情報の可視化やDMAT(災害派遣医療チーム)の充実によって、迅速で組織的な対応が可能となりました。これは、阪神・淡路大震災をはじめとする過去の災害経験から学び、得られた教訓が生かされた結果だと感じています。現在、南海トラフ地震などの甚大な被害が想定される災害に備え、国・地方自治体等は被害を最小限に抑えるための対策を進めています。AIやデジタル技術の進化により、リアルタイムの被害予測、避難所運営の効率化など、テクノロジーの進化がもたらす可能性は計り知れません。一方で、人と人が直接つながる温かみのある支援、人と人との連携や現場での判断力の重要性は変わりません。阪神・淡路大震災の経験は、私にとって「命を守るために何ができるか」を問い続ける原点を与えてくれました。その教訓を次世代に伝えつつ、未来に向けて自分の今までの経験が災害に強い組織づくりに寄与できれば幸いです。



～震災から学び、未来に備える～

日本赤十字社兵庫支部 総務部長 泉 恒光

私は発災翌日の1月18日、須磨赤十字病院を経由し兵庫支部(旧庁舎)に向かっていました。夜明け前、神戸に近づくにつれ、明かりを失った薄暗い街並みが延々と続き、辺りには焼け焦げた臭いが、至る所に立ち込めていた。街全体が倒壊した建物と瓦礫の山で、寒さの厳しい中、着の身着のままの姿で毛布を羽織った人々が路頭に迷っているのを見た。支部に到着し活動の支持を仰ごうとしたが、当時23人いた職員のうち出勤できたのは12人で、自らも被災者であったにも関わらず、赤十字職員としての役割を懸命に果たしていた。救護班として出勤したが、私たちの車両には赤色灯が付いておらず緊急走行ができなかったため、区役所の職員を道案内として同乗させ自治会館や公民館が建っていたであろう場所を目標に瓦礫の中を移動した。阪神高速の支柱が破壊され横倒しになっていたところを、海側にぐり抜けようとしたが、通行できる場所がなく、長田地区に辿り着いた時、ケミカルシューズの工場から出た火の手が渦巻き(火災流)のように迫ってきた。その時の、頬が焼けるような熱さと命の危険を感じたことは、今も鮮明に覚えている。西市民病院や神戸市役所では、ビルの中層階が押し潰されるパンケーキクラッシュが発生し、先発で出勤した救護班は自衛隊員らと協力して瓦礫の撤去と入院患者の捜索に加わっていた。私も最初は、人家に土足であがることに抵抗があったが、災害の大きさを実感するにつれ、人命優先、住人救出の行動へと変わり、一軒一軒大きな声をかけながら救護活動を行った。巡回活動では、「けがや体調の悪い方はおられませんか」との問いかけに、「こっちは大丈夫やから、他のところ行ってー」、このやり取りが続き、救護をしなくて良かったことに安堵することもあった。今思えば、自治会や婦人会、奉仕団によって、炊き出しや食事の提供が行われていたのも、困っている人を支えたいという「共助」が自然発生的に生まれ皆の行動に繋がったのだと思う。この活動が「ボランティア元年」と言われるようになったと聞く。当時、助手席でナビゲートしてくれた区役所の職員は、今も私と同じ思いでこの30年を迎えているのだろうか。



災害救護体制のより一層の強化!

研修・訓練の実施

11月2日、姫路赤十字病院にて災害拠点病院研修を実施し、県内の各赤十字病院の救護班が参加しました。

今回の研修は大雨による水害想定のもと、傷病者の受入、救護エリアでの医療救護活動に加え、院内設備の確認等を行いました。

また、地域連携にも重点を置き、近隣医療機関と連携した活動や管轄消防署による傷病者搬送も行い、近隣の自治会の皆さまには傷病者役としてご協力をいただきました。

11月19日、神戸空港において、航空機のトラブルにより着陸後機体から出火し、多数の傷病者が発生した想定のもと、神戸空港航空機事故総合対策訓練が実施されました。

神戸赤十字病院救護班は、軽症エリアにて関係機関と連携を図りながら、傷病者の症状の確認や手当を行いました。

11月26日、香寺総合公園スポーツセンターにおいて、兵庫県南西部において大規模地震が発生し、車両事故により多数の傷病者が発生した想定のもと、兵庫県警総合災害警備訓練が実施されました。

姫路赤十字病院救護班は、中等症・軽症エリアにて、病院保有の救護資機材を展開し、事故車両から救出された傷病者の手当を行いました。

今後、このような研修や訓練を通して、関係機関との連携を図り、災害救護体制のより一層の強化に取り組んでまいります。

防災・減災への取組み(赤十字防災セミナー)

阪神・淡路大震災をはじめとする大規模災害では、公的機関の救援活動で救える命には限りがあり、発災初期に重要な役割を果たしたのは、自分自身や家族を守る「自助」、地域コミュニティなどが助け合う「共助」の力でした。

日本赤十字社では過去の災害の経験や教訓から、将来、発生が予想されている大規模災害から人々のいのちを守るため、「自助」、「共助」の力の重要性と知識などを高める機会として、「赤十字防災セミナー」を開催しています。

兵庫県支部においても、自治会や奉仕団、企業からの要望に応じて防災セミナーを実施し、防災・減災に取り組んでいます。



いのちと健康を守る赤十字活動は
皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています。
活動資金にご協力をお願いします

郵便局・ゆうちょ銀行からご協力いただけます
口座記号番号:01110-0-1136
口座加入者名:日本赤十字社兵庫支部
※窓口で取扱いの場合、振込手数料は無料です。